

静岡大

# 卓越教員に研究環境優遇

## 新制度創設 総合力発揮狙い

静岡大は、学内の教員の中から「卓越研究者」と「若手重点研究者」を選定し、研究環境面で優遇する制度を創設した。それぞれ全教員の3%程度。伊東幸夫学長が20日、県庁で会見し、「大学の総合力を発揮するためにつけたい」と強調した。

静岡大は教員約700人の中から、卓越研究者22人と、30〜40代の若手重点研究者25人を選んだ。任期は2013年3月31日まで。研究スペースを優先的に配分するほか、若手重点研究者には特別に研究費を支給する。

卓越研究者は、論文数や科学研究費など外部資金の獲得状況、受賞歴、教育力などの実績を総合

評価し、今後とも継続して活躍する見込みのある教員を抜選した。若手重点研究者はおおむね40歳以下を目安に、論文数や科学研究費の採択状況を踏まえて、独創性や想像力のある教員を選んだという。

静岡大は卓越研究者を講演会の講師として学外に紹介するなど、「大学の顔」としてアピールしていく。伊東

学長は「学生と教職員が誇られて、地域からも頼りにされる存在になってほしい」と期待を寄せた。